1977
4

1977
4

1977
4

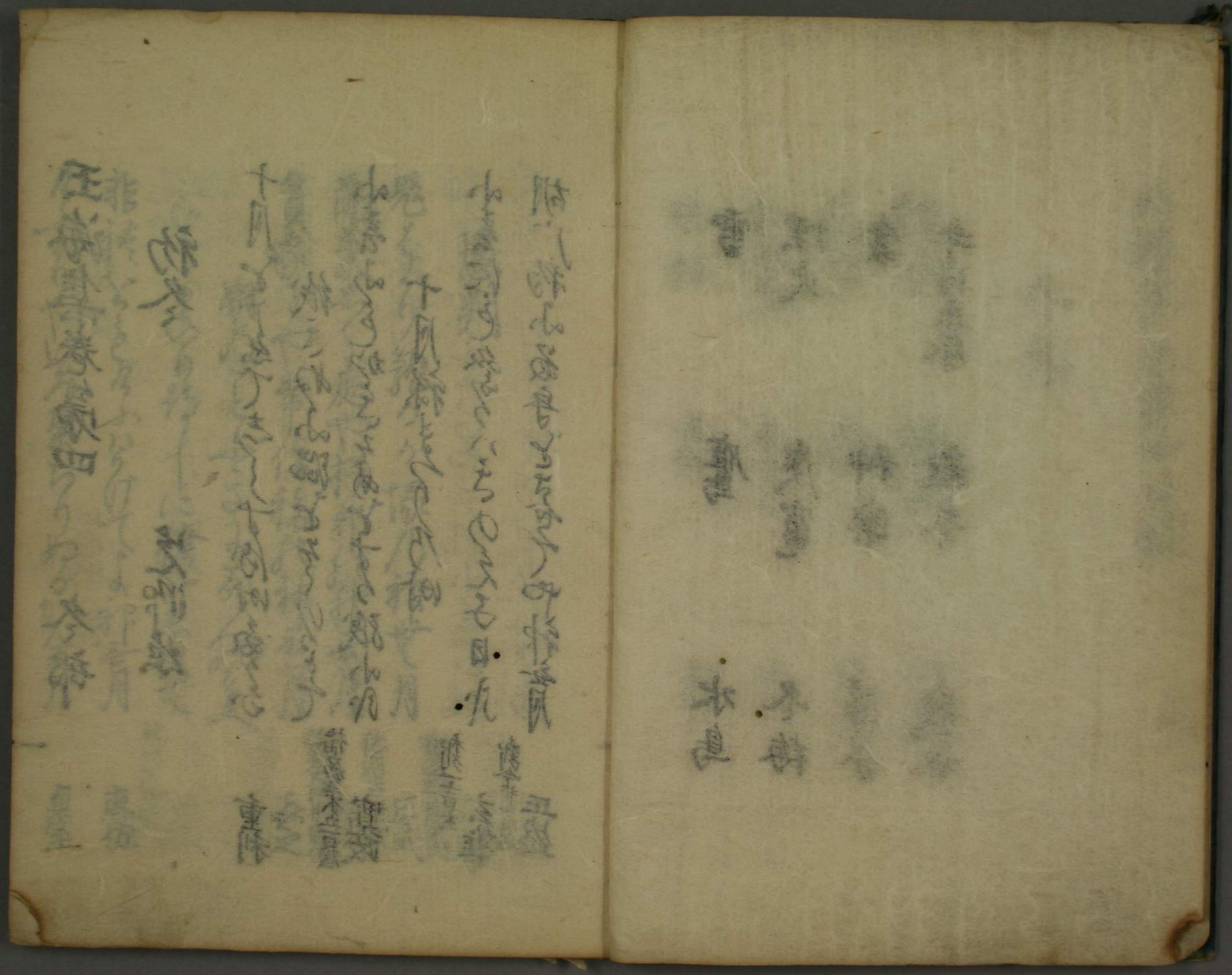
生物事務所目錄

今井

玉海集卷第四目録

冬部

初冬　時雨　殘紅
落葉　霜　寒草
水仙花　冬月　氷
氷柱　霰　霙
雪　鷹　水鳥
埋火　炭竈　冬梅
衾　神樂　節分
年内立春　雜冬　歳暮



玉海集巻第四　冬部

初冬

光源院

十月をしるべてきつゝすゑ時あるか　重利

紙さゝぬ小淵をそゝげるとて

小春ゆゑかさゝめをすゝ紙小衣　播磨守平五郎　寛政

十月初まりの時

小春にも数ふ八さのえ子日小　刑部卿　玄雄

胡広物小袖寄をさせてや神無月　刑部卿幸千代西民　正盛

愚判

鬼やらひ鄙ろゝ風乃神無月　和泉郡池尾　正式

落葉きつゝ庭や掃部乃神無月　伊勢吉田氏　信元

貧家ゆや常住福氏神無月　摂津大坂井田氏　義之

朝乃とゝさゝ安人氏之

まゝり作りに袴をきれて

非禅をもゝふ小けてよ神無月　恵佐

ゝふりやいろ染ちりぬるかゝ月　真室

時雨　先師題

高せんしまかこなひ山紅時雨　摂州大阪住　万春

あふ坂山みくま

逢坂乃たこ川くれく乃時雨かな　武州江戸神門　文明

さらさらと後や時雨の紙小　丹波福智山住民　見友

愚判

たこれ山庵雲ハいやめれ小雲かれ　播州姫路住　重助

天まちなかして何を夕時雨　秋田郡信濃領　為

伯陽をころ涓ゝ小たこ紙　摂州大阪住　忠昌

あふた時笠ハ初うきぬ時雨かな　武州平尾少兵衛　辛以

小りて見ぬ初時雨ゝ小たり　武州江戸村住民　弘武

あらく吹風もこゝ小れるか

川風と水魚合をこれか那　敦賀住少兵衛　重識

松風乃音ふまこさハこれかる　江州八幡西野民　吉勝

山坂もこゝろそこれ小

殘紅　愚判

神無月十六日恵日山東福寺ふ
まつり

えんにゆりてゐる葉ゑんちや開山忌　恵佐

落葉　芝浦路

風ゆゑあるよ木の葉乃猿ゐ河　江戸行脚　俊秀

金閣寺にて

風小落葉ゐ桑たをしそきんくし　古隠太霊社東　梅盛

木の葉ふる夜嵐ハ矢物あるもの　摂津福島池鯉　重久

沙田とゐことをかくし紅葉

腰乃ゐ河た河つらゐ小ちるゐ紅葉ふ　摂列那波宝蔵　由古

愚判

こ乃葉ちるや秋ハ類ハ一ゐれるゐ　冬嘉義後内義　頼香

金閣寺にて

山寺ハ上菅ちる紅葉ふか那　摂列名目部寺義　右和

風乃息ゐ小山口乃落葉ふか那　知蓮寺学室　知春

柏木乃根ゐ見れぬ落葉ふゐ　泉列協任　成安

ゐ秋ハ風を吹ふ乃おちゐ葉ふ　三忠

吹ちらす風ハ其ノ菓乃あるか
風乃神や木菓天物をたゝらめ
天物をれ涙乃あハ木乃菓かな　徳窓
人乃あのうせし逝悼よ
菓ハちりてさひしさうなる木立ハ
落葉ハこれあとなる木菓かれ
蝦乃巣や木菓乃あの呉まとひ
玉とうす木のそれ寄ゐや猿まるこ
風ゆけば空に鮮ゆや木菓猿

東尾小安水　幸以
伊賀国上野村長　未友
武州江戸源進　貞昌
勢州郡山藩氏　勝重
武州江戸員等　春清
尾州住　有也
摂州大阪玉造長　易利

ゆうゆうよ木の菓れあハのうれ
ゆうあや木菓ころもかすき
観世流の謡うたのもと
みて

東条在　兼長
恵佐

色落ちる菓をちらす風乃声
空とれてちまろ木菓やひてうあ
東海西牧子をうしるれ
けうをいうみく
あきかれハけふこうるし此落菓ハ

貞室
同

霜

紀州和歌浦　貞長

霜もとゝ白霜ふる磯ゝ鶴かな

摂州大坂住　貞因

地獄谷と劔乃山より霜飛りか

摂州摂津郡氏　森之

霜のつ面さ底根つさ紙と霜さ小

江戸　忠直

そゝと霜よといたら霜乃とるかゝ

清水氏　言聽

和田の沖波めく

霜風ふわゝゝふるふこゝきゝ小

冊州福智山氏　利之

霜乃ふ霜もとゝ霜ふ霜ハ翔ゝ志や川ゝ月秋ゝ

泉州堺阿弥　定宣

千年乃かゝり花ゝ野ゝ乃霜

播磨姫路三木氏　知重

華表ゝや神乃前ゝ霜りゝら

泉州堺住　成安

霜柱ゝ底や苔乃跡やくら

葛野九郎兵衛尉　德窓

うゝゝゝ地と拂ゝ霜柱

同　定之

関山乃根よ柵ゝ霜ゝ霜ゝら

分かるひも程寒し寒りら　永定（永井茶坊氏）

地こそはんのそつきたてれ寒りら　恵佐（濃州佐倉藩）

雪柳をわさはんあるゝ寒りしら　可然（伏見住）

日あしいれて破るや寒乃ひさ襖　重治（丹波黒井住）

いりこそも寒乃鍋ハ接另かゝ　退歩（接別大坂住）

炭乃たるやうなハ寒乃鍋うな　貞正

夏法寺日祐上人御真影

和漢の才ハすゝ　岱元

弁や詩乃ようき樹そ寒りら　貞室

老師病中

老師病中ゝ彩樹の命を

のよかしけるは

老杉や寒よかれせあ千代の声　同

芝師題

寒草

そてなきと寒よハ乃薄かれ　長崎野沢氏　玄茂

愚判

寒秋ゝと寒ゝ菊乃薫ふ　松平氏　定久

冬ぞらや乳くさ乃ゆのもり宵の月　武州江戸大学院　秀長

貞徳居士追善

かまゆけと匂ひや踊り菊の月　摂州大阪住　貞因

水仙花

　　之師題

蓋にへ水仙やこれひちやう房　摂州大阪天満氏　宗清

水仙よみそれのかりけを

金さんてこそれ酒をやをいせん花　肥前屋義兵衛　政信

下葉りや花瓶乃口をすいせん花　吉地市郎左衛門　可頼

冬月

　　之師題

雑波ひろりてそ

月宮やまゝ書天ふこ川乃京　木村太郎右衛門　重頼

愚判

寒くとも雲ふりすてそ秋ま此月　和州郡山今泉氏　吉保

寒き秋もうゆこそそれ月ぬ貞　江戸昌雲軒　春清

月まこそ秋

中きやされ梅ゝハ月りそさえ時雨　摂州大阪玉造氏　一重

時雨ふれてあま川さえわり宝月
凡さらさらるはえるもち月秋

薩摩藩士 恵佐
感延

氷

氷干乃衣といえんこおりか那
後義坊白さらや氷乃あるも川
ふゆ川やふれて氷乃ちはかる

大和郡山藩士 重頂
播磨姫路 義重
播磨姫路藩士 知重

愚判

むすび日や武乃ふとと東夷と

たいてはまりくてのちかれ劔と
こあるまひつこれを等雑乃
明神とあり先なすと笑て
順礼のはまそてはうもる
神劔ようと乃氷のあ川氷
雲と氷雄雄ある川乃劔か那

大坂長谷村氏 徳窓
宗清

屏風乃細工をするをみく
さゆり袋乃氷や風乃袋ふり
すい屏ふ皮ふ波乃こおりかな

尾州住 之也
熊野那智山学侶 圓恵

古川ふ水とゐやすやあれこそり　武州江戸住　忠重

江戸下ゆし時

氷てや雷へもせめもりこ河　相州平野出羽氏　一重

宇治川乃網代ゆくもむ氷うる　同

川ふもそり出されぬこそりかな　恵佐

そりゐるもち波のおれそもうる　春霄

氷面やひゝつとこ乃へてうすこそり　三忠

氷神は変わるもかけよ新面鏡　江州大津西村氏　吉勝

奥や餓鬼氷をひとみ寒地獄　東寺町南辺長七　一正

氷桶も氷りて乃をハ氷桶か邪　兒山孫右衛門　光屋

敲ゆ〳〵又第を黄出す氷ふ　貞室

氏猶〻為業〻〻へ乃〻すこそり　同

波乃あやと板ひさまよする氷くふ　同

書ふと行〻人のまとゝ佐う

ゆす

こゝらぬい袖乃洞れ乃こそりまる　同

氷柱　愚判

松にさゝ海たらやぬけかつら花　武列江戸堀田氏　蘆雄

雲ノうらさゝ海ふたゝ川つらかふ　摂列大坂松尾氏　昌次

ひふわのそとるたらやさゝみまり　但馬生野幸ノ荷氏　貞行

尾張流より桑るうひけなる

八棟ふ八鉾さゝつらか那　貞室

霰　先師題

雪しやゆるハわゝ也乃た海第　幸五条住　宗親

屋根乃笠よひゝ雪玉ゆれ　薩州鹿児島住　太山氏

ふゝとゆりさたハ笠秋ふゆゝれる　辻氏　忠直

津堀乃人へよ雪てそとの渡門

ゝとなゝ弱て

白玉ゝ伊のそとゝ渡ゝふ原あゝれ　摂州大坂豊島氏　當黒

愚判

つめあきゝと埋ゝやいゝん玉あゝれ　東山安芸宮東　善入

ちゝ雪ハすり屑ゝれゝや玉ゆゝゝ也　吉野山　泰雲

秋の霧みゝかゝめてゝや玉あゝれ　徳窓

ま乃内てゝすゝや衛の玉ゆゝれ　濃列山端氏　蕃哉

海よ海ハひきんゝ砂ゝ玉ゝれ　敦賀大井氏　重次

漢竹ハ霧霞乃はけへか那　尾州住　有也

石山浅崎山とる沢あれか那　播州姫路住同氏　交云

先師一周忌の追善よ

数とるや弟子等ハ数殊の玉霰　自室

霞

霞ゝ空乃雲ゝ酒旗とゝれゝ那　同

雪

紹巴法橋よすめゝもて祈ゝ

紙衾百ゐせ一時

四方に雪あけてくゝるや風ゝゝ　高野山本食　楚仙丈

先師題

ゝりゝゝ花乃都や今朝乃ゆき　摂州大坂秋葉氏　利當

雪ゝ中鶯ハちゝゝくゝゝゆゝか那　摂州大坂住八十　長勝

千ゐの内よ

たちさ庵ゝ竹の林はまたら雪　有馬氏藩安　秀白

村〳〵乃雪けやゆ〳〵伊弱山　大坂井巴流芭蕉門　栄春

物ゝゆゝさい花鰹ゝさや乃山　播州姫路酒井氏　吏云

あい雪とふきあつゝ風ゝなゆとゆ　清水四郎左衛門　言聰

風乃もてゆい雪まゝや波のう孫　丹波福知山藩氏　政通

雪に牧白さ木とみゝ柏か那　播州大坂住　秀清

花笠ゝや足ゆゝえゝ雪ゝ松　播州大坂安福氏　秀之

雪天より日にさせ雪乃花乃笠　播州姫路　茂重

やりわゝや竹乃ゆ笠て雪ゝ中　播州淡路洲本藩氏　重明

出乃小袖なひ箱物や巣ゝ雪　薩州鹿児嶋藩氏　吉行

ふゝ家とさに落花や雪霙　寺町殿光寺　恭安

あゝあゝ礼雪を物ゝすや自在天　大坂大淀六丁目住　元春

天人乃花かこなれゝや竹乃ゆさ　播州豊嶋　當黒

雪小物ゝゝゝ童をみて　丹波福智山藩氏　之政

姥竹ゝたいて物ゝすゆ影雪ゝゆ　京大坂秋谷氏　永定

竹とこ山乃原ゆもゝゝ海ゝこ雪小

みちのくゆ孫そのなりゆて　薩州鹿児嶋藩氏　吉行

花乃見ゝまけゝ海ゝ孫ゝ松の雪

あふ武士乃門出乃松の言を
ひたゝろや御所乃御門出乃松の言
むすめ乃花や二三乃さくら海敢上孫
老人の寿命を祝て
とゝつゝ大すけや百むすめ乃さか
武蔵野小袖てかゝすゆきさま
伊勢乃国出鬼のそゝとゆきさま
釈迦乃嶽出言やそゝ文六やく
言やゝけ作れ 茶師乃十二月

薩州鹿嶋沢氏 朱秀
泉州堺久米氏 忠重
板列役井出氏 義之
小谷甚太郎 久恵
播州書写山 祐典
京都公家清水氏 宗珠
本村大郎右衛門 重頃

佐人やかゝるゝやの寿海ゆき
ふれやゝまゝ花や横姫ゝ袖乃言
言乃秋言とゝく
打かゝゝや言し秋光乃まゝ言
踏人乃技出ゝせゝやゆきさまゝる
愚判
陳言ハさゝゝゝのまゝ出ゝやゝる
ひえ地乃ゝゝやゝ言出ゝゝさゝ小
白くゝみゆゝ秋乃出かゝら橋桐乃言

播州姫路城氏 正重
板列伊丹城氏 豊光
江戸伊勢氏 信秀
播州姫路 歩重
東六条山中氏 道可
板列大坂住 貞正
徳窓

妙國寺乃藤棚をみく

つもれり　玄々　藤棚庭乃雪　泉州堺住　貞成

梁王ぬそのまゝ　雪れや庭乃雪　摂州大阪住　本也

いけ乃こゝ　花石みえぬ　庭ぬゆき　摂州大阪城北　保友

見ぬ乃内ふとりうしなふや雪ぬ　京四条田中乃人家　正伯

ちゝにつゝとりもち雪うすくこ　京二条寺町　梅風

水の上ゆかゝゆる雪やこゝり餅　摂州大坂中村氏　友雪

餅雪ハそなたゝよゝ　沖門　是友

負お次や粉雪にむすぶ風乃口　泉州堺住　一武

雪花をちゝ次ハさむさ　大人　夢一

雪ぬゝく幕ハ花のあゝかる　大関和尚　玄弘

万木ハみふ雪花乃枝葉か邪　勢州南部氏　三忠

雪花や冬咲梅乃ちる乃光　大坂住島野氏利兼　英次

雪花乃ちりつもりてやゝ山乃山　紀州島山　正重

せゝまりぬさ河ゝに雪ぬ流ル　梅寿

信州中ゝ乃ゆゝて雪乃凸と

山る古語をたゝりひ出て

凸乃たゝすや凸ゆゝさのやま　法窓

花山みて

名ところハ雪にもさるる花山かな　恵佐

國々ハいづくも雪の清寺か那　安静

江戸白川侯別宮にて雪見

ありけるに

ふる雪にあつまかりけれ白屋かな　知多郡岩滝氏　直成

千潟の雪小生海嵐をひろひて

雪かゆ潟乃ゆもこしやとろ福寺　文川三郎吉房　岩之

寒梅そつくるまくやふる所ゆき　東六条侍従氏　祐孝

山ひめの森乃雪なら食雪　兵刑大輔福田氏　光継

雪磨れそうふかるやふる所雪　李吟

上京乃法源寺二月廿五日

しふ雪れいそう海ゆれて

むしのことりひやらまて

紀州和歌山住　良辰

紅梅見乃後も小倉のこ雪かふ

尾州住　之也

竹も木も腸をかむしろ涼雪りふ

姥竹やゆきさいてきて二年腸　同

をのたるる惟みるやとふこるも　同

雪と霜とを分ふさらの竹の安竹ハ　　紀州那山多賀氏　一筍

庭のかんちくよ雪をいとひて

ねわすれけりをみく

漢竹乃類となれやゆきの夜　　備後国野長野氏　業秀

篠やしゝ羽ゝなりにかゝる雪ハ竹　　京二条家芳井氏　秀朝

雪乃竹ハ佛如こゝ　　ハ朝日ゝ　　加友

竹内一茶子亭にて

竹乃門ハ雪やよちりてをさゝゝ　　同

天ハとゝおゝも臭も雪ハ竹　　同

雪みちハありくとも先ゝ　　濃州行基奥畏　可政

ひさと雪をふめゝハ畏高木殿ゝ

笠ハかゝ〳〵皆ハ却りゝ雪ハ道　　越前敦賀宗哲氏　正次

雪踏とやゝ所やさゝ〳〵ふゝ　　玄川三郎右衛門　長之

雪みちを庵々ハ綿ひく車か那　　貞室門堀小四郎　兼室

雪ふの所ゝりハ初々のゝ海かれ　　恵佐

雪の日河邊を通りゝ

むけとゝいふ魚をとりてもゝ

人をみく

水底もみるや夏花の花　同
垢つゝて花ハつめたゝ雪乃綿　江戸 昌雲軒 春清
雪乃綿かつくハ庭乃女松か那　大坂 七九ヶ 生敬
大淀乃雪ハ女松や伊勢大浦　薩州 鹿児島 長谷氏 快温
雪の光り天女もかくやひめ小まち　季吟
見ぬ人といつくきゝをれや雪女　摂州 大坂 古瀬氏 一重
雪ゆゑ人をすゝをみて
雪乃檜ハつゝゐ雪乃さゝ軍　勢州 富田 廣瀬氏 重純
雪乃雪乃雪ハさゝひ祝ふゐや雪乃花　紀州 那賀 山本 隆 道諄

穀みそれゝやゝゆきの花見酒　尾州住 有也
真淑居士三回忌ゝ真室卒ゝ
雪とふりしゝ踊とふゝあや三回忌　河地 久兵衛 正量
雪のあゝた酒あゝめて
鶴酒ハゆきゝ花乃小袖か那　真室
独吟千句のうち
かゝりてや祝さゝゝ上乃ゆきま雪　同
紙園すて
雪ハ地ふゝろかゝもゝゝ紙園乃礼　同

尺よわまれ来野乃雪ゆたかなから　月

森ひえて志ゝ起行

秋乃ひとうと

小仮乃ゆすもつるやゝ枯ゆき　月

兼應武年霜月十四日巻師

貞盛法ふかれてまひて雪羽

爽相寺乃松法よ御かゝを

はさあけそ乃秋雪御うちつそ

月八袖の涙よりてかゝ

かりけるかな

小まつ松師れ新うもり松乃雪　月

光師二回忌よ

雪にるゝ溝三歳やわなみゝ　月

鷹　愚判

爪かゝ沼れよ猟もりたゝ弓かけ　熊野長將奉養　一入

是やゝゝ猫よかゝ雑寄乃霧　三忠

水鳥　光源院

鴨も鷺もいけどりにされやそなれ　　文龍太郎左衛門尉　梅盛
よしの宮や弾良のうそなれ　　摂州大阪住　友重
引しすしひたる者の者乃子孫なる　　佐渡氏　栄甫
屠る鷺てそくいひを者乃食乃　　薩州鹿児嶋住　太岐
声乃後もそくしひ鴨の演千鳥　　伊予中左衛氏　信元
演千鳥鴨や鴨こ乃ちらし出　　濃州山浦氏　栄武
多々所演とし所ふるく

なまもふむや鑪鞴乃演千鳥あり　　播州姫路演氏　是誰
酔けるさ塩風よ千鳥河
鉄砲よあ浜なたも鴨ちとり　　薩州鹿児嶋住　正頼
槽ひやうしの鴨あり船乃とも千鳥　　播州姫路三木氏　太山氏
雷鳴ハたるひやうしかや友千鳥　　播州姫路住内氏　和重
愚判　　交之
声ともたそうもや波よ浜義主　　東海氏　正頼
梅ま浜あよ船もの鴨よかいつり　　但州生野住氏　安永
そしりた子何ハ乃ハ子何ハ　　丹波黒井住　退安

無風よあさ行や和泉の乃海潮　京狩川田中作助　正業

名にはひ〳〵奥も恋ゝや千鳥　雄野長嶋石農　恵佐

一とひよさつゝや子里ゝ迄ちとり　薩州鹿児島是谷氏　一入

虎なくて千里ゝ迄や千鳥かけ　屋州住　多延

うゝと水とゝまるまゝや中よき千鳥　有也

むまきゝやゝ海とゝまつく友千鳥　徳窓

かんどりといさゝや紅乃友ちとり　播州姫路平野氏　永雪

せハしくもなくゝや心をいさゝちとり　梅威

千鳥追かな

あさなくハゝ白ひやゝしゝ友千鳥　皇室

播津国河内国乃人なまり

ゝりて能鳴せし時追かな

郡鳥もゝりゝやはのゝふ河内鳥　同

鶴乃濱といふ所にて

鳥たすゝき濱や鶴乃ゝ海ちとり　同

埋火

山里ハすゝこよかりゝ圍爐裏の火　薩州伊勢氏　重紀

先師

法大寺といふ所にて
炉に炭をおこす家や後法大寺殿　寺町宿老寺　泰国
まこと炭は火花やいとうの橋　木村太郎右衛門　重頼
をくやひようたんかう弱のて廃炭　同
ゆこり初る炭も火花のはしをれ　板列大坂住　貞因

愚判

ひえわるに火はてよろこぶ火燈ル　播磨三木五百蔵　勝政
炭とりやとせて紙屋もたりこたい　伊勢生野寺田氏　豊重
と君なりけるへの供をまして

鶯野に出るよいと寒かりぬ
あるやとたつ初て火とりせつり
けるに初こたとしの初をとり
出てきりせ作ー行ル
うれ火に近き炭毛乃猫たるか　東花田氏長東　政明
年歳もみそ八鉢も炭火鉢か那　正久
寄りしー八番とあやるや炭から　中島内蔵丞　宗方
炭の粉ハかりくみそ杜いろり　貞晨
赤ゆて炉ゆもいけるり火毛ゑ　屋敷有貴医東氏　独卜

炭乃火ハ消てもいつやをき火燈　摂州大坂住　正隆
さえて後ハ霜さえや炭のせう　江戸人住福氏　光継
せうふなる炭や火桶のまとれゆき　文永富尾氏　重隆
消ていハ火桶と春のとなりかな　三忠
たひて寝てつまゝかさねる火桶哉　恵佐

炭竈　先師跡

冬ハよるさすゝ面とて池田かな　摂州池田住　正次
ふすりるや小町ゝ魚ハ小野乃炭　小谷長左衛門　久恵

愚判

やく炭や大原山乃ゆとゝろ火　和泉郡山池氏　正式
炭焼ハ只ゝろうなる家ゝ哉　武蔵江戸住人　信清
炭竈や山乃腰ゝ乃くゝり風呂　奥玉三郎左衛門　貞利

冬梅　愚判

雪に肌あらせてゝらくやゝ乃梅　和泉郡山今泉氏　吉保
年乃内ハ梅の暦やいまゝ記　京野口作左衛門　頼永

衾　先師題

たくはりてつくや薩摩乃かみ子哉　摂州大坂住　義信

愚判

愛洛子和くかゝん乃ゆ子哉　泉州堺住　成安

あさゝえ死をすさ名やおり人紙衾　三忠

紙の衾をたくはせて

四六ふを作るや二十四こさみす哉　播州餝郡住　可隆

いゆ子てなるを和ゝよ

俗人ハけふ孝哉なき衾哉ふ　摂州大坂谷町住　正周

祢宋

愚判

かゝ爲繁盛千白奥州才十

とゝやゝやあり陸子乃祢ゝ宋

御者や酒屋うゝふ祢かく羅　摂野名高石倉氏　一入

西乃京ハ祢宋もあつまゝ極ひゝ爲　摂州大坂住　正隆

玲ハ秋もすゝかゝる祢宋かゝ　紀州和歌山日方氏　貞長

濃田をゝやすやゝ祢ゝ祢宋傾　尾州名護屋住　ノ身

作者知

舞はさあめのつくやさ祢うさよ祢ふ　知多郡宮令泉氏　吉保

宜祢ハ座よつくやらすあれ祢へふ　臭室

節分

元禄題

節分ハ年をたつさ祢やゆ御定の上　土佐太守侍従藤盛

言分乃よ祢ん乃月やたくつみ　下野宇都宮豊田氏　元重

秋ふすてらすや言分乃年ハ波　丹州福智山佐兵氏　頼秋

言分ふ鬼かまう年乃年　伊勢山田侍従氏　成吉

大豆乃つも鬼一口よ言分乃秋　播磨姫路城主氏　文云

愚判

言分の秋ふ祢ふりかれく

言分乃鬼ハなんくやられ面　文川三郎右衛門　長之

立春の天祢ふまて行く

ふも祢乃文尚やき祢ふりけり餅　西田三郎左衛門　元知

女のもくハ乃竈ふ白ふ祢

たけのをみく

若水をあすハ汲へきやけらかふ　賀氏聖安　胤測

まあ祢一にさりよ祢ひ行そ

一口ハ一とせこしの秋か那　鰐十

せちゑんのまゝけもゝ年数　恵佐

せちゑんの水ゝしゝ御菩薩池　真室

年内立春　先師題

春の日はゝとのゝすゝや年の内　江戸仮屋長崎　徳秀

恩判

春はまゝ年の内へもかすゝかの那　板列板大平氏　伯貞

年の内の春ハ俳諧の盛かな　児山三郎兵衛　隈光

立とゝしのうちゝさゝあうゝをゝかゝすゝ　真室

やゝしの内や名代はゝ川春霞　同

梓弓春やゝ川さゝしの内かゝと　同

已のとゝしのうれしゝ

ひまゝ成たゝゝうゝゝゝや辛丑内まゝ行　同

雑々

独吟千句を油ゝ

こゝろゝねゝと水川とゝう懐紙か那　勢州山田度會　守武

先師題

小雲に日のけはひて
夕霧のはれてあふぎやかより花　小谷甚左衛門　久恵

屏風よりうつる雪をみて
むかしの花ひらく〳〵六枚屏風　東七条藤本氏　宗宅

碁友達の庭の梅よりきれ
あつまりきれて　防列山名國小西氏　幸義

冬まてハ下平ハ雪の熟梅ハ
雪けめて葉さへ花さへ白菜かな　冊列福智山乾氏　政通

咲花の香よりも黄菜の花香ハ
色も香も花咲ハ白菜かな　冊列福智山住　道味

山田寺〳〵信都も名や拾坊
東山の僧ハ仏ら数珠かゝ　池野氏　重久

風の音てもやおもふ数珠蕪
絡なくて咲るもかゝれかゝこゝ　高野氏郎兵衛　栄春

白小袖ハこゝりの中ハ
寒き秋ハ人れも一すなゝ　摂列大阪住　貞因

の原馬の池道まてゝ
の内　摂列三田住　正勝

越後柏崎藤兵衛　一顕

摂列大阪住　栄盛

摂列大阪住　三守

敷賀中村住吉　正次

天宝元良業なれやあるれさけ　豊後森戸　道圓

月乃玉もすりなと碎やあるれ酒　摂列大阪木村氏　重頼

炉色にて鹿をてらしあるを

みて

かをけてもしまこそやなくしく　摂列上牧富松氏　元寄

冬郭公とよ〻ぬ

佛名ふかるかけ〻なくき沢　播列書写山　祐典

餅つきは四よかゝはやるきの形　摂列大阪住七右　鴉女

見ハ餅花とわ四よやなり

めち花も柳〻枝ゝさをなき

四よかけらもけるはきれこそ

雪仏の四よもかなしく

雑冬

愚判

寒さとも思ひ〻ハ福乃かゝこゝれ　備州世かい氏　一晨

ゆ〻かれとこの身と寄るかんこゝ　摂列大阪住　一清

冬つゝや閑院殿乃しやうしかん　武列江戸俵羽氏　春宵

寒〻〻ゝえいゆぬ賤ハよきもほ　摂列大阪住　貞昌

業を欲く祈ぬや秋長乃鷹ゝ　摂列大阪住　交直

釈類乃あるを得て
口切乃宿にてみまりたく乃ひ乃ち免
　　京二条花井氏　秀朝
とゝ志れの饗のあり時
あるゝ家よまゝるや老乃年ゝれ
　　勢州桑名竹内氏　良信
服の志りよゆゆゝとゆるなんかゝ
　　下村利兵衛　康吉
宴る釈乃寮酒ハいるゝゝあんかゝ
　　尾州清須服部氏　安重
砂神よ宴ゝさやゝゝふ酒ゝゝき
　　勢州松阪竹内氏　良信
文字ふゝ志いゝ志ゝすや乃ゝれ酒
　　伊勢助左衛門　信徳
釈光原和ゝを志ゝあやあゝゝれゝけ
　　季吟

宴ゝゝりれ行人ゝゝあゝき行ゝを
ゝれよゝりゆゝふゝゝゝゝけれ行　同
あゝつゝき神和ゝを宴て
ゝゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　麻布長右衛門　正哲
ゆゝまゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
車坂もか宴乃ゆゝりよゆゝまゝり
　　馬喰氏　常信
神神ハ金剛釈又ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　宗畔
長以九米三間居る
　　摂州大坂瑞山氏　保交
宴月日ゝゝ原ハかゝゝゝゝゝゝゝゝ

先師真盛居士乃像をうつ

仰て霜月十四日の野
辺送の舎を備けり

霜月のかすみの御新やいまうせ　播列飯淵氏　安明
さよあらさらは作や数乃玉はをり　但列生野中嶋氏　安永
かゝる風乃吹も道理やかんのうち　武列江戸島田氏　基明
師のまゝ親のまゝ別を惜乃
ちゝの有は世もしらるゝ
あらきをりしく

ちゝ父まて弱きをり毒乃あるをり　但列生野進藤氏　貞室
うゝひもゝ母乃ハ離別の御ゝ　清水四郎左衛門　重光
名代日ハあゝ行すゝけあるをり　京粟田口藤氏　言聽
あゝ乃ハ父をあさ行るやはの北南　和列郡山池田氏　由治
ゝつけやかゝ付たゝ乃より而　播列飯住　正式
はあゝきハ行よみをさす將基ハ　京井筒氏　盛行
はいてひらく餅花ハ父乃接本ハ　播列飯福氏　宣良
人の御ゝとゝあゝく
人目みあいゝ乃業もなきゝ本ハ　秀之

鶴月ハ風ふきさえあひらかぶ　敦賀野沢氏　永吉
りをみく悟るといふくそんふ　宗仙寺和尚　虎福

歳暮

師匠

ちかうして立てなう海く年ぬれ　米沢四郎兵衛　言聰
　ふのうしのうれなる
なるあ孫乃冬そうちつて年嘆　本村太郎右衛門　重順
ゆしのふ子とのふ子国かあ　能勢陽平勝頼氏　正心
　大嘆ふ穀ふりぬれ

一ち弱乃行とぬなれやふあれ　泉孫慎親氏　一武
ゆふ春ハ複陸ふ乃一夜かあ　西田三郎兵衛　元知
ち今ふひとゆるやん人の老ぬ　用弓名兵衛　催笑

愚判

老ふ恋やの乃かかとぬあふ師匠　平式子十五才　正親
七月をなれてふき志ふすかあ　大井次郎兵衛　重次
張ふりし洗濯絹乃志ふすれ　小村利兵衛　康吉
ふぬふふ老乃浪ふふ師匠ふ
師匠のたふふふ

吉兆は去ぬるとしの秋

六

年のくれの家言り

つめよりやおもの墓のむもものくれ　越前福井住人　安原

むまのくるしみをくるしみてゆくひつぎ　吉地市郎右衛門　可頼

くれてゆく年は去らるるものかな　伊賀住　重治

そうなくるとしの月日と数えて

地ごくにおちるやうなやくれ　勢州桑名住人　良利

月くれぬ日やまぶそくそくれ　摂州堺住人　宗清

年波は言ふまじ川のせいかな　武州三郎左衛門　長之

懸引

うなくなるくれ八時なる　恵佐

行年はかくはなれさあ矣ぬり　同　京三条住人　勝盛

そやくれ行やくれは矢物の矢名ぶ

年そゆくひれやとるりはれの去

ようてどくすく逃りする富もかな　仁多佐郡出雲国住人　季吟

逃るるとくや年乃のせつきそろ　京樋口長左衛門　正秀

り年乃矢つきそやなる時之ぶ　正信

くれ乃矢も射かけてよすせいぶ　貞室

同

切年乃なりを矣拙に哉人もなし　同
いそらしさ物ひをうしゝ物源之介　同
行ますよ拙を老乃年盛　同
そゝ八ふるゝ乃けの日あり　同
除物よ
ゝよひう川晃ゝひく高もくる　同
むゝ八まりゝ人の世よ位
まひけ物源之ゝとゝとり拙
ゝひ物遠從りや周の者を

おもてうゝとて懐番紙
まつゝさけてみえゝれを
俺人やかゝりくゝもゝれのとも　同
拙角物こゝ行くうゝ物せき
ゝものゝれよ
借殘もきゝくゝうる志八部ゝる　同
借殘乃渕八うゝ川まゝ氷ゝ部　同
老乃波もあゝいそゝ丸源之介　同

七卷內